

# 災害救援出動

# 災 救 通 信

日本付近で発生した台風として9日間以上の長寿記録を46年ぶりに更新し、ブーメランのような前代未聞の動きを見せた『台風10号』は、東北、北海道の各地で猛威を振るい甚大な被害をもたらした。8月に入って北海道に台風が3回上陸、3回接近、通過という事は過去に例がないという。

この台風による主な被害は、8月30日夜頃より渡島、胆振地方を中心に暴風雨の影響を受け6万5千戸が停電し、街路樹なども多く倒れた。更に翌31日未明には豪雨により札内川、空知川、芽室川などの複数の河川が氾濫し、新得町、清水町、南富良野町、芽室町などで堤防の決壊や橋の崩落、住宅街などが浸水し、停電や断水も起きた。

こうしたことから道内各地の災救援支部隊長や支部長より状況を伺い、自治体からの出動要請の有無などの確認を行った。その中、9月1日、富良野支部隊（中村孝典隊長）は南富良野町よりの要請を受け、公営住宅や公共施設内にたまった汚泥の除去作業や物品搬出などの救援活動を行った。いち早



総合福祉センターの汚泥を搬出する隊員。

く活動出来た背景には南富良野池部彰町長と中村則之幾寅分教会長との間に親交関係があったことが迅速さにつながった。またこの日、災救援田中勇文本部長と奥村教区隊長等が現地を視察した。これは教区隊が台風接近によって平時訓練（P4掲載）を急きよ中止撤退を余儀な

平成28年  
10月1日  
第9号

発行

天理教  
災害救援  
ひのきしん隊  
北海道教区隊

逐次発行

宣誓  
我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

くされて、訓練の後片付け中に一報を受けての現地入りだった。

早速、中村会長の案内で南富良野町の災害対策本部へ赴き、被害状況を聞かせてもらい救援の要請等を受けた。現地では早急な活動展開を求めていたことや、支部隊が活動を開始していたことで、急きよ先遣隊を翌日から結成し支部隊の応援が出来るよう教区災害対策委員会に伝えた。

9月2日教区記念祭当日、災害対策委員会が開かれ先遣隊を2日3日の二日間とし、教区本隊を4日～6日の日程で行うこととした。また、道内の各所でも被害が報告されていたことから、出動は富良野、旭川、上川、天龍、空知、南空知支部の道中（どうなか）ブロック（災救援通信7号掲載）と重機、ダンプ持ち込みの有志班で対応することとなった。午後1時、宿営場所となった幾寅分教会に隊員が集結し、結隊式を行い南富良野町鈴木誠保健福祉課長（幾寅分教会ようぼく）、大佐古稔富良野支部前災救援隊長からあいさつをいただいた。

その後隊員の半数が福祉センターへ移動し汚泥の除去や事務用品の搬出を行い、残りの半数が、町内公営住宅からの家財道具や畳の搬出、汚泥除去などの作業を行った。



町営住宅から、どっぴりと重くなった畳を搬出。

↓9月3日先遣隊二日目。昨日に引き続き福祉センターの汚泥除去作業を行った。この日は同じ現場にいた自衛隊仮設水槽からの給水を受けて、高圧洗浄機を用いて洗浄作業も行った。また、町内公営住宅の汚泥除去および清掃作業に加え、町内にバリエードを組み立てて、進入禁止場所などに設置をした。終日作業を行った後、午後4時から解隊式を行い、岡田正弘富良野支部長や幾寅分教会中村会長がお礼を述べられ、先遣隊の活動を終え、解散した。

あとがきとして、活動初日の夜に災害時の超多忙の中を宿舎である教会に、池部彰町長がお越し下さり、隊員一人ひとりと握手をし、お礼を述べられ、一同は胸を熱くした。

9月4日～6日先遣隊に続き教区本隊の活動が始まった。この日の午前中は、富良野支部隊と先遣隊から継続して活動していた隊員が作業にあたった。午後1時、先遣隊と同じく幾寅分教会を宿舎として提供いただき参拝場にて結隊式を行った。主な現場はこれまでの活動を継続して、町の総合福祉センターで汚泥除去や洗浄作業をほぼ全員で行った。隊員は上から下まで作業着が泥だらけとなり、着替えがいくらあっても足りない程であった。5日には西垣定洋教区長が南富良野町に入り、町長へお見舞いを述べられた。更に隊員と共に作業を行った後、宿舎にて一同を激励した。また、濁流で陥没した歩道や路肩の補修工事を、統北分教会よりタイヤショベルや4tダンプを持ち込んで駆けつけ

## 教区本隊



池部 彰 南富良野町長がお礼に。

た隊員が作業にあたった。更に、他の隊員も発電機や高圧洗浄機、水中ポンプや各種トラック等の様々な機材を持参していただいたことは有難い限りである。

最終日はあいにくの雨模様となり、撤収はやや難航したが予定通りに進み、正午から解隊式を行った。あいさつに立った高橋秀樹副町長が全身を振るわせ男泣きの姿を見せた。故郷がこのような事になったことは「情けない」と強い悲しみや辛さを表され、救援活動の有り難さを強調された。

今回の出動を通し改めてたすけの場へ急行することの大切さと、現場で強く感じる痛みを通して、たすけあいの尊さを学ばせていただいたように思う。

最後に、宿舎を提供下された幾寅分教会長様と台所や食堂も快くお貸しいただいた奥様始め信者さんにお礼を申し上げ、合わせて賄いのお手伝いや現場で作業を共にした富良野支部婦人会、そして他支部より応援いただいた婦人会、女子青年さんに重ねてお礼を申し上げます。



幾寅分教会前で出発挨拶。

## 南富良野町、空知川氾濫に伴う活動報告

平成28年9月2日～3日 **先遣隊** 参加総数 49名（内、婦人会7名）  
作業人員のべ61名

- 作業報告 総合福祉センター汚泥除去 420㎡ 事務用品搬出及び洗浄作業  
タイヤショベル2台による汚泥運搬  
公営住宅6棟の汚泥除去、畳40枚搬出、家財道具等の搬出
- 使用機材 タイヤショベル2台、トラック5台、高圧洗浄機2機、発電機2機など

平成28年9月4日～6日 **教区本隊** 参加総数 71名（内、婦人会10名）  
作業人員のべ114名

- 作業報告 総合福祉センター汚泥除去 780㎡ 地下室からの汚泥汲み上げなど  
タイヤショベル2台による汚泥運搬、陥没歩道整備6カ所  
公営住宅汚泥除去、側溝掃除汚泥除去、ゴミステーション復旧など
- 使用機材 タイヤショベル2台、トラック6台、高圧洗浄機2機、発電機2機など

## 十勝支部隊も出動

十勝支部（郷司諭 支部長）でも前報のように、新得町、清水町、芽室町、大樹町、幕別町などで河川の氾濫、橋の崩落、住宅の浸水や農畜産地の大きな被害を受け、各自自治体でも被害が把握出来ない状況が続く、断水や停電も起きていた。そうした中、支部ではすぐに各自自治体へ出向き、活動させていただけたと申し出たが、受け入れ出来ない状況であったという。教区でも十勝支部からの要請も考慮しつつ富良野での活動を行っていたが、こうしたことから多人数での活動はすぐには出来なかった。

## 1次隊

この状況下で支部隊（小林道弘隊長）は待機状態が続いたが9月7日、この日に立ち上がったばかりの新得町のボランティアセンターへ登録をし活動を開始した。この事は同町にある北新得分教会 福西博三会長が前日、地域町内会長の全体会議に出席した際、ボランティア活動が明日より開始される旨を聞き、十勝支部に伝えたことによるものである。

隊員は早速、町内の床上浸水した住宅の土砂や瓦礫の撤去を主な作業として行った。9日までの予定で1次隊を組んだが9日は大雨となり8日で解散となった。1次隊参加者 7名

## 2次隊

9月13日～15日の日程で前回同様に2次隊として活動を行った。一般住宅の瓦礫土砂の除去や役場の備品倉庫の清掃及び整理を行った。更に町民体育館の周りにたまった土砂の除去作業も行った。

この活動に際し、13日には西垣教区長が、14日には奥村教区隊長等が視察と作業を行った。

2次隊参加者 16名 生活班婦人会3名  
宿営場所 北広分教会 昼食 北新得分教会  
報告者 三輪健夫支部副隊長



新得町民体育館の土砂を除去。

## 釧根支部隊でも

台風7号の影響を受けて、釧路市にある網走部属八十桜分教会（青木敏男会長）では、8月17日、教職舎の屋根が飛散した。すぐに大教会から応急処置に駆けつけたいだが、次の台風で危険と判断され補修場所をやむなく解体。その後、9月3日に支部災害対策会（栗栖文夫支部長）に被害を報告し出動を決定した。出動期間は9月14日から16日とした。

作業内容は建物2階からのゴミと畳の搬出作業や、分別などを行った。また、災害廃棄物の処理申請も進め、翌日からの作

↓業に備えた。9月15日 搬出したゴミを軽トラック2台に載せ処理場へ運搬して廃棄した。廃棄量は軽トラック8台分であった。その後、トタンなどの鉄類をスクラップ工場に、軽トラック4台分を運搬した。隊員のべ10名が活動に参加した。

報告者 釧根支部隊 安田広伸隊長



搬出したゴミを仕分ける。

## 平時訓練報告

教区災救隊では8月29日～31日の日程で倶知安支部管内の岩内町で訓練を実施予定であったが、台風10号の接近に伴って30日早朝、異例の解隊を断行せざるを得なかったことを、先にお伝えさせていただきます。

8月27日 おぢばから戻った今井副隊長始め生活班は、早朝より食材を調達しながら教務支庁へへ集合する。

28日早朝、物品積み込みや資材確保のため主な



田中勇文本部長。

スタッフが教務支庁へ集合した。昼前には岩内町へ向けて出発し、午後2時に宿营地である町営キャンプ場「マリンビュー」に到着した。驚いたことには既に地元岩内の原田倶知安前支部長が、多くの物品資材を持参され、我々を待ち受けておられた。そして、物品を満載したトラックから資材を次々降ろし、各所の準備が始められた。いつの間にか日も暮れ始め前夜は静かに時が流れた。

29日 久保田倶知安支部長もお手伝いだけで、結隊式に向け準備が急ピッチで進められた。今回の訓練は本部より田中勇文本部長が来道され、昼前に会場入りされた。午後1時、野崎副隊長補による規律訓練があり菅野副隊長補の凛々しい司会で結隊式、オリエンテーションを行った。

その後、2班に分かれ早速作業が開始された。ひと班は今回の作業現場である、ニセコいわない国際スキー場へ移動し、コース整備として刈払い機による草刈りと、手ノコやチェーンソーを使つての雑木除去作業を行っ

た。もうひと班は今夜の寝床を設営した。

初日の作業を終え、夕礼後、刈払い機使用の研修会を行った。ちょうどその頃、二日後には台風接近の情報が入り、急きよ明日の昼の解隊を決定した。その後和やかに一時を過ぎた。まだ東京湾あたりから風が突如強まってき、隊員テントが次々と崩壊し始めた。そのうち大テントが、3棟グニャグニャに壊れ、その中の1棟は10m以上宙を舞った。あり得ない光景に驚愕し全隊、夜中に撤収を行った。隊員はやむなく車輜で仮眠を取った。

非常にむなししい気持ちとなったが、夜中に震度7の本震を受けた熊本の方のことが浮かび、被災された方の痛みを万分の一でも感じられ、救援活動の基本を学ばせていただいたかと思う。一同は夜明けと同時に解散となり、各支部へと帰隊した。末尾になりましたが、倶知安支部婦人会の主任先生始め、婦人会の皆様には大変お世話になり、お心を頂戴したことお礼申し上げます。また、各所よりの差し入れやお心遣いにも篤くお礼申し上げます。何よりもこうした経験をした隊員に心より労い申し上げます。

参加隊員56名 世話班15名 婦人会8名 合計79名

作業 スキー場取り付け道路200m 草刈り  
コース内6千400㎡ 草刈り  
資材 刈払い機35台 チェーンソー2台  
軽トラック3台 2t パネルトラック